

# ◎保健福祉学部

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 1 教育理念・目的

保健福祉学部では、少子高齢化が急速に進み、保健や医療、福祉を取り巻く環境が大きく変化している時代に、次のような人材を育て社会のニーズに応えることを目的としています。

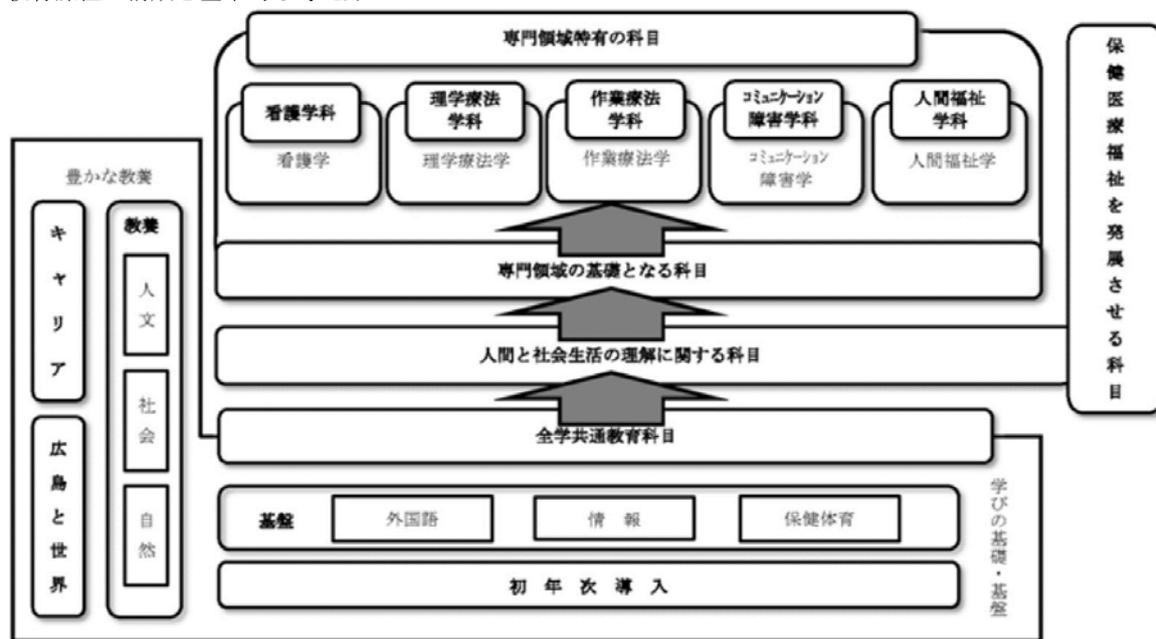
- 1 高度な専門知識を有し、保健・医療・福祉に貢献する人間性豊かな人材
- 2 保健・医療・福祉の総合的実践力を有し、チームアプローチを実践できる人材
- 3 保健・医療・福祉の領域において総合的に教育・研究する基礎的能力を備えた人材

そのため、5学科の連携教育により、専門的な知識や技術のみならず、チームアプローチや地域包括ケアシステムを支えることのできる総合的な実践能力を養う教育を行います。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 1 専門教育課程の構成方針

(1) 教育課程の構成と基本的な考え方



保健福祉学部の教育課程は、①全学共通教育科目、②人間と社会生活の理解に関する科目、③保健医療福祉を発展させる科目、④専門領域の基礎となる科目、⑤専門領域特有の科目、の5つの科目群で編成されています。

- (2) 保健医療福祉を発展させる科目では、保健・医療・福祉の仕組みやあり方を学び、5学科共同による演習を通して、社会の中での役割を認識し、保健・医療・福祉の連携を図ることができる資質を養います。
- (3) 実習科目では、実践現場における的確な判断力、主体性、創造性などを養います。保健福祉学部附属診療センターなどの活用により、段階的な実習を取り入れるとともに教育と実践との密接な連携を図ります。
- (4) 卒業研究は全学科必修科目としています。

### 2 専門教育課程の特色

- (1) 5学科共通の総合演習科目により、役割認識とチームアプローチの修得を目指します。
- (2) 臨床・実践教育に重点を置き、地域・社会での活動を可能とする科目を配置しています。
- (3) 小グループ教育を推進し、自主性と創造性を培います。
- (4) 科学的思考や国際感覚を育むための科目を設定しています。

### 3 学修成果の評価

学修成果の評価については、適正な学修時間を確保したうえで、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、学期中や学期末に行う筆記試験・レポート・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度や貢献度を観察したりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

県立広島大学のアドミッション・ポリシーのもと、保健福祉学部には、保健・医療・福祉の対象となる人々に専門的立場からチームワークを通して寄与することができる人材の育成が求められています。

保健福祉学部は、高校で学ぶ基本的知識を身につけ、人に対して関心があり生命に対する倫理観を持った、入学後も生涯にわたり学び続けることができる意欲がある、柔軟性と協調性を有する学生を求めます。

# ◎コミュニケーション障害学科

## 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

### 1 学修成果

#### 【知識・技能】

- ・言語聴覚士として、多様なコミュニケーション障害（ことばときこえの障害）及び摂食嚥下<sup>えんげ</sup>障害（食べること・飲み込みの障害）に幅広く対応できる専門的知識・技能を身につけている。

#### 【思考力・判断力・表現力】

- ・専門的知識・技能を活用して、コミュニケーション障害及び摂食嚥下障害のある人の状況・ニーズ及び支援方法を多面的・論理的に分析し、総合的に理解・判断することができる。
- ・臨床・研究活動を通じて得た知見を科学的に解釈し、適切で論理的な表現を用いて伝達できる。

#### 【主体性・協働性】

- ・保健・医療・福祉の各分野で、支援対象者及び関連専門職と協働して、よりよい支援を追求する意志と、実践力の基盤を身につけている。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### 1 専門教育科目の構成と特色

コミュニケーション障害学科の専門教育科目は次の科目群より構成します。

- (1) 人間と社会生活の理解に関する科目  
コミュニケーション障害を理解するための前提となる、人及びコミュニケーションについての広い視点を修得します。（解剖学、生理学、地域社会と言語、生命倫理学など）
- (2) 保健医療福祉を発展させる科目  
コミュニケーション障害のある人々を支援するために必要な包括的な知識、考え方を学びます。（リハビリテーション概論、家族支援論及びチーム医療福祉論、チーム医療福祉演習など）
- (3) 専門領域理解の基礎となる科目  
脳、ことば、声、きこえ及び食べることの仕組みとその障害について基礎的な知識を学びます。（臨床心理学、脳機能画像学、神経内科学、耳鼻咽喉科学、歯科口腔外科学など）
- (4) 専門領域特有の科目  
コミュニケーション障害、摂食嚥下<sup>えんげ</sup>障害及びその支援について専門的知識を学びます。（発達系、認知系、聴覚系、発声発語・嚥下系の各障害学概論と演習、臨床実習など）
- (5) 卒業研究  
コミュニケーション障害を科学的に捉え、関連する諸分野の発展に寄与できる知識と態度を修得します。（コミュニケーション科学研究法、卒業研究）

### 2 ディプロマ・ポリシーとの関係

- (1) 人間の行動の中で最も複雑なコミュニケーション行動について、幅広く高度な知識を修得し、臨床実習を通じた能動型学修により、多様なコミュニケーション障害に対応できる技能と実践力を獲得できます。
- (2) 日々発展する関連分野の知識、情報を主体的に収集し、自らもコミュニケーション障害学の発展に寄与できる科学的、研究的視点を持つ言語聴覚士を目指します。
- (3) 保健・医療・福祉の分野で、支援の対象となる人々や関連専門職と協働・連携してよりよい支援を追求し、地域社会に貢献する意欲を高めます。

ディプロマ・ポリシーとの対応表（○は特に養成できる力）

	知識・理解	思考・判断・表現	主体性・協働性
専門基礎科目	言語理論と言語心理	○	
	音声学	○	
	音声・聴覚情報処理	○	
	言語発達	○	
	生涯発達心理学	○	
	学習・認知の心理学	○	
	心理測定法	○	
専門必修科目	コミュニケーション障害学概論	○	
	コミュニケーション障害学診断法		○
	発達系障害学概論	○	
	認知系障害学概論	○	
	聴覚系障害学概論	○	
	発声発語・嚥下系障害学概論	○	
	発達系障害学演習	○	○
	認知系障害学演習	○	○
	聴覚系障害学演習	○	○
	発声発語・嚥下系障害学演習	○	○
コミュニケーション科学研究法	○	○	
専門選択科目	高次脳機能障害特論（小児）	○	
	失語症特論	○	
	拡大・代替コミュニケーション特論	○	
	心理測定法特論	○	
	音楽療法概論	○	
	言語情報科学特論	○	
	コミュニケーション福祉工学特論	○	
	ヘルス・コミュニケーション論		○
	グループダイナミックス	○	○
	対人コミュニケーション論	○	○
	臨床実習	○	○
チーム医療福祉論・演習	○	○	
卒業研究	○	○	

### 3 学修環境

#### (1) 学生指導

学年ごとに専任のチューターを置き、学生が安心して通学し、学修に勤しむことができるように、学生生活についての個別指導と助言を行います。

#### (2) 5学科共同の授業体制

1年次の大学基礎セミナー、チーム医療福祉論など、さらに、専門基礎科目、専門科目、4年次のチーム医療福祉演習の履修などを通して、現代の医療と地域ケアに求められるチームアプローチを実践的に身につける機会を提供します。

#### (3) 臨床教育の充実

附属診療センターを活用した学内臨床実習及び協力病院・施設における学外臨床実習に加え、地域社会での活動を可能とするため、失語症友の会など当事者団体及び地域保健福祉活動に関わるボランティア活動参加を積極的に支援し、リハビリテーションの実践的経験の場を提供します。

### 4 学修成果の評価

授業科目ごとに「目標」と「成績評価方法」をコースカタログに示すこととし、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」について、学期中や学期末に行う提出課題・筆記試験・実技試験及び授業への能動的な参加度や貢献度等をもとに総合的に評価します。

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

### 1 基本理念

コミュニケーション機能及び摂食嚥下機能<sup>えんげ</sup>は、個人生活及び社会生活を営む上で極めて重要な能力です。本学科では、コミュニケーション障害（ことばときこえの障害）及び摂食嚥下障害（食べること・飲み込みの障害）のある人を支援する言語聴覚士を養成します。

複雑で多様な障害に対応できる幅広い知識と臨床技能を持ち、保健・医療・福祉分野を中心に地域社会の発展に寄与する有為な人材の育成を目指します。

### 2 人材育成目標

- (1) 言語聴覚士として、コミュニケーション及び摂食嚥下障害のある人を理解し、支援を行うための基礎的知識・技能を持つとともに、保健・医療・福祉におけるチームの一員としての役割と責任を果たせる人材を育成します。
- (2) 国家資格を取得することに加えて、幅広い教養と、コミュニケーションと摂食嚥下の障害に関する諸問題を科学的に捉え、課題を解決していくための学術的素養を身につけた人材を育成します。
- (3) 本学で身につけた臨床的・学術的能力を生涯を通じて自ら育み、保健・医療・福祉分野を中心に、将来、地域社会の発展を牽引する意欲を持つ人材を育成します。

### 3 求める学生像

- (1) コミュニケーション及び摂食嚥下機能と、その障害について深く学びたい人
- (2) コミュニケーション障害・摂食嚥下障害のある人を理解し、保健・医療・福祉の向上に貢献する熱意のある人
- (3) コミュニケーション障害学とその基盤となる学問分野を理解し、諸問題に柔軟に対応するための基礎学力と主体的に学ぼうとする姿勢を持つ人
- (4) 自分も相手も大切にして、おたがいに理解するための努力をしながら、協力していくことができる人

### 4 入学者選抜の基本方針

#### 【知識・理解】

高等学校で履修した教科・科目について教科書レベルの知識を十分に身につけていることを求めます。

#### 【思考力・判断力】

著書、論文、評論、資料などを論理的に正しく読み解き、課題に対して適切な判断を下す思考力を備えていることを求めます。

#### 【関心・意欲・態度】

コミュニケーション障害や摂食嚥下障害のある人の福祉に強い関心を持ち、他の専門職と連携してよりよい支援の実践に真摯に努力し、主体的に社会に貢献する意志を持っていることを求めます。

#### 【技能・表現力】

他者の意図を適切に汲み取る理解力と、自分の考えを相手に分かりやすく表現する力を備えていることを求めます。

#### 【一般選抜（前期）】

「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握のため、大学入試センター試験を課すとともに、小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。また、学修への意欲と専門分野への適性を把握するため、面接における質問に対する理解力、判断力、表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し、評価します。

#### 【一般選抜（後期）】

前期日程とは異なる資質・能力を持つ学生を選抜するため、「自ら学ぶ能力」の基盤となる基礎学力の把握を、大学入試センター試験の3教科3科目で行います。また、学修への意欲と専門分野への適性を把握するため、面接において質問に対する理解力、判断力、表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し、評価します。

#### **[推薦入試]**

広島県内高等学校等推薦枠及び全国高等学校等推薦枠を設けて募集します。小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。また、本学科進学のための目的意識、学修への意欲、専門分野への適性を把握するため、面接で、学修への意欲や堅実性などについて質問し、理解力、判断力、表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し、評価します。

#### **[社会人特別選抜]**

言語聴覚士への目的意識と学修への意欲が高い人を選抜します。小論文では、課題に対する読解力、洞察力、論理的思考力、文章表現力などの基礎学力を総合的に判断し、点数化して評価します。また、本学科進学のための目的意識、将来への展望、学修への意欲、専門分野への適性を把握するため、面接で、学修への意欲と堅実性などについて質問し、理解力、判断力、表現力及び対応の仕方や態度などを総合的に判断し、評価します。